

みんなとともに笑顔いっぱい - 「学びあい」「認めあい」「高めあい」 -



みんなとともに



火・水の二日間、全国の小学校長を案内して、福島第一原子力発電所を見学してきました。原発に行くのは、4年連続になります。加えて、津波の被害を受け震災遺構として整備された旧請戸小学校も見学してきました。「請戸小の奇跡」と呼ばれていますが、津波が来るまでの間に児童全員を高台へと避難させた「危機対応」は“みごと”です。「震災を風化させない」という思いで、この企画は続いています。



「道徳ノート」の読後感想から

保護者の皆様に記入していただいた「感想」の“すべて”に目を通させていただきました。お忙しい中にも関わらず、担任のコメントを含めて、お子さんのノートを読むための時間を取っていただき、さらには率直な感想をいただきましたことに感謝を申し上げます。本校の実践の一端を感じていただく機会となったことをうれしく感じています。

【「読後感想」の紹介】 *スペースの関係で代表の方のみの掲載です。また文章もこちらで一部改変しています。

[6年保護者]

学んだことを自分の中でよく考えて、自分のものとして答えを出そうとしている姿がうかがえます。気持ちや心にどういふふうに分かちあ合っていくかを、いろいろなシーンできちんと考えられるというのは、とてもすばらしいことだと思います。

[2年保護者]

家ではなかなか真面目なテーマを話し合う機会がないので、道徳ノートを読んでみて、普段自分の子供はこういう考えを持っているのかと、発見もあり嬉しくも感じました。様々なテーマを通して、周りと協力することや、人に優しくすることなどに気付くきっかけになったと思います。

[3年保護者]

子どもの心の成長を感じました。答えが1つではない人の心や感情、気持ちについて深く考え、さらに自分の感情、思いやり、気持ちを見つめ直す事の出来る良い機会ではないのでしょうか。豊かな心と愛情を大きく育ててほしいと思っています。

[5年保護者]

はじめは自分の考えや思いをうまく表せていないようでしたが、後半になるにつれ、自身の経験等と照らし合わせた記載も見られ、成長しているなと感じました。また、日々伝えていることを親が思っている以上に本人が理解しているんだなと感じられる記載もあり、嬉しく思いました。

[4年保護者]

感想を読んでいくと、月日を追うごとに物事をよく考える力、自分の感じた事を人に正しく伝える力がついていくと感じました。また、毎回学習感想後の先生のコメントは、本人が感じた事を肯定する言葉がたくさん書かれていて、本人の自信にもつながっている事が感じられました。

[1年保護者]

人として他者とどう関わり、どう対応していくか、個と集団の中でどう感じどのように表現していくかなど、幅広く取り扱っていただいて、ありがたく思います。本人も道徳の時間が大好きなようです。たくさんの人と出会い、違う意見があっても受け入れる器を育ててほしいと思います。

[5年保護者]

道徳のノートを読んで、まず驚いたことがありました。生活の場面で「こうした方がいいよ」等会話の内容の中にあつたことが、道徳で感じたこと、考えたことに文章となってありました。自分が日々過ごす中で、学んだことを反映させているのが、とても素敵なことだと思います。

[6年保護者]

自分を大切にすることや、他人を尊重することは、意識しなければなかなかできないと思います。清明小の道徳教育は、その意識をはぐくむきっかけになっていると実感しました。子どもの心の変化を知ることでもできてよかったです。ありがとうございました。

【校長のつぶやき】 その102 「何も間違っていないのに…」

ある蕎麦屋に入った。入口の掲示物には「新型コロナウイルス感染症」の感染防止策としての「入店の際の留意点」がびっしり書かれ、最後には「問い合わせは県庁または警察へ」とあった。入ると「30分ぐらい待ちますかいいですか」と聞かれたが、おいしい蕎麦屋なので待つことにした。蕎麦を待ちながら壁を見ると「マスクをしていても会話は小さな声で」とか「食べるときは黙って」とか「食べ終わったら早く店を出て」とかの文言がある。渡された紙に「名前、電話番号、入店時刻」も書いた。完璧な「コロナ対策」である。店の方の接待もわるくない。蕎麦と天ぷらには今回も満足した。店のあり様は、何も間違っていない。でも、「この店にはもう来ないだろうな」と心がつぶやいた。「何か残念だ」と感じるのだが、その「何か」を表現できずにいる。